災害図上訓練は、災害が発生したときに身近で起こる被害を想定し、地図上に書き記しながら災害時の対応や備えを考えていく訓練です。（写真は大保木連合自治会による災害図上訓練の様子）

小林　みんなが同じように危機感を持っていただかないといけません。もともと災害とは、予想外・想定外なことが、あるときに偶然が重なって起こるものです。そして我々はいろんな危険がある地域の中で、生活していかなければなりません。

　そのために、まず「ベースにある危険を知っておく」、次は「地域のコミュニティのつながりを作る」ことが重要です。これは自主防災組織を作ってもらうことと同じことです。

　市民の方からは「丈夫な家を作ってくれ」とか「土石流を止める大きなダムを作ってほしい」とか言われると思いますが、最初からハードで解決できることはありません。いくら砂防ダムを作っても山はもう壊れているので、次々と山から土石や木が流れてきます。

　山を健全な形にするには、コンクリートじゃなくて木を山から流さない、流されないよう、木がちゃんと育っていくように山直しをしないといけないということです。災害に強い森づくりを真剣に始めないといけません。

　ただ、今は危ない状況が来たら、いち早くその場から離れる。みんなと連絡が取れる安全な所に行っていることしか方法はありません。行政はこれをお願いしておかないといけないのです。

　地域コミュニティの中でお互いの情報を交換し合うというのは、非常にプライベートな問題がいっぱい入るので、それを信頼し合ってやれる関係が出来ていないと、いくら防災組織を作っても、他人の事は他人の話ということになって、機能はしません。

　市が助けに入る体制も限度があるわけです。「市民から連絡が来る」「市から安否確認に行く」。これを必ずできるようにしておくのが、ハードで対策を考えるより妥当で、至急やるべき仕事だと思います。

丹原町桜樹地区で行われた災害図上訓練の様子

市長　よくわかりました。大保木地区は、一昨年の台風のとき、幸いにも一人残らず安否確認が取れました。

小林　それはある意味とても良い教材になります。他の地区もそこからどうやったら良いのかを学べばいいのです。

市長　このときは「ただ、ひたすら足でかせげ」ということで行動し、情報の発信・受信がうまくできたのです。

小林　役所はこの地区の人たちがやっていることを市全体に広報することが、今後市民が一体となっていくために必要なプロセスですから、ぜひPRしてください。

市長　そうですね。災害が起きたときに、どう予測し、どう感じたかは、郵便局や市職員が個別訪問して確認しているのです。

　そのことを市民に伝えることは、必要と思います。

小林　役所と地域が日ごろからどんな関係を作っているのか、こういう例が他にもあれば、周りの地域の活動資料になります。

市長　西条市実践防災計画はまだ始まったばかりですが、どこまでできているか、途中経過を確認する機会を定期的に持ちながら、進めていきたいと思います。

西条市実践防災計画について詳しくは

市庁舎本館危機管理課
防災計画係
TEL０８９７―５６―５１５１
（内線３１２２）

地震ハザードマップ完成
震度分布予測図 津波浸水予測図を 市役所・各公民館に 掲示しています

　市では、今後発生する恐れが30年以内に50％といわれる南海地震や、市内を横断する中央構造線沿いの活断層による直下型地震が発生した場合に想定される震度分布予測図と津波浸水予測図を作成しました。

　これらの図は、市庁舎、各総合支所、各公民館に掲示しています。市のホームページにも掲載していますので、今後の防災活動に活用してください。